

NPOひょうご農業クラブ通信

くらし・食と農

相生市
若狭野町
神戸市東灘区
向洋町中
tel (078)
857-8159
(責任者)
増田大成

2008年
4月号
NO, 5

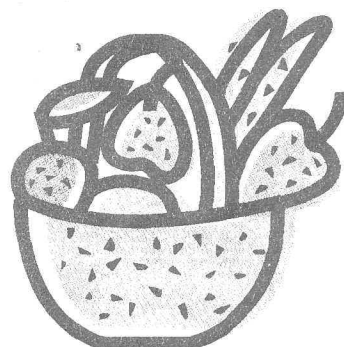
安心・安全をキープする

最近、時を同じくして二人の方から野菜の宅配を依頼されました。一人は神奈川県川崎市の方で、もう一人は神戸市灘区の方です。依頼の理由は安心して食べられるものが欲しいということとです。野菜クラブの店で買い物にされる人たちと話をしていても、昨年来の食にまつわる諸々の事件や世界的な食糧不足問題などが皆さんの不信感を根深いものになっています。どうすれば食に安心と信頼を持ちえるのでしょうか。メーカーや販売業者に過ちや偽りのないように強く求めたり行政の指導監督に頼ったりすることも必要ですが、この際私たちが自身がどうあるべきなのかを真剣に考えることが大事だと思います。

農業クラブからの提案

ひとつの提案があります。お米の購入を年間契約で生産者（地）と直結するのです。具体的に詳しく説明いたします。宍粟市の土万（ひじま）地区に特別栽培米を生産している農家のグループがあります。そこからお米を購入する話を今進めているところです。特別栽培米というのは有機質の肥料をほとんどこし、農薬は通常の四分の一ほどに減量しています。雑草取りに農家の人はひと苦労です。品種は「きぬひかり」です。試食すると味はよく大変おいしいお米です。このお米を今秋の収穫から来年秋まで毎月二回程度受け渡しするように入ります。契約までには試食説明会や現地視察会を開催して

十分納得のうえ購入申し込みできるようにしました。

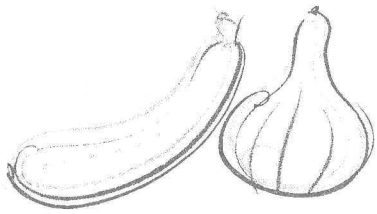


五つの安心と信頼

さて、こんな取り組みを通して私たちは何が得られるでしょうか。
第一は「安心」がキープできる事でしょう。1.安全であるという安心、2.おいしいという安心、3.年間の米を確保できるという安心、4.確認して納得できるという安心、5.品質と価格についての安心。そして全般的には信頼を寄せる事が出来ると確信します。

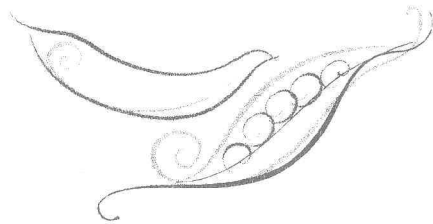
都市と農村を結ぶ意味

第二には生産者と消費者の支えあいによる結びつきが出来るということである。消費者（都市生活者）は農業生産者に支えられて食生活が維持できているのですが、近時農業生産者は年を追って高齢化が進み、加えて後継者不足です。食と農にまつわる深刻な問題は単に農村問題とはいえません。私たちは都市生活者の問題、日本の問題と受けとめて私たち自身が食の生産にもっと近づき対応していく必要があると考えます。生産者を支える事は自らを扶ける事になるでしょう。



食糧の自給について

第三には日ごろの備えを大事にしたいと思えます。最近の世界の食糧事情をみていると自給率四十%弱の日本の食糧生産状況はきわめて脆弱です。今のうちに手を打って食の安全状態をつくっておく必要があります。私たちはどう対応していけばよいのでしょうか。



真の「豊かさ」とは

そこで第四に地域共生・共助の対応が賢明だと思えます。個人での対応には限界があります。お金さえあれば大丈夫だと思いがちですが、お金が有効に働くのは物がある時だけで、無くなると威力を失うのです。第二次大戦中から戦後にかけての食糧不足の時代の経験で明白です。

以上のような次第で、安栗市の土万地区の特別栽培米の予約契約購入は、お米の買い方やお米を手にいればそれでよい、というだけのことではありません。もっと意味の深い大きなチャレンジだと考えます。この取り組みには非ご参加ください。その意味をお互いに深め、考えましょう。

